

第1回都市計画に関する基本的な方針等改定推進委員会 会議録

日時 2019年7月8日(月) 9:30~11:30 会場: 大田区役所 5F 特別会議室
出席者 委員: 岸井委員長、村木委員、野原委員、中西委員、市古委員
事務局幹事: まちづくり推進部長、都市開発担当部長、産業経済部長、都市基盤整備部長、都市計画課長、空港臨海部調整担当課長、拠点まちづくり担当課長

【委員】 現行の都市計画マスタープランのレビューはされているのでしょうか。今回の現況整理は、課題を整理したというところだと思いますが、現行の都市計画マスタープランをこれまで10年間運用してきて、どれくらい実現したのかといった振り返りや進捗管理についてはいかがでしょうか。

(事務局) 今回は事務局で課題を抽出し、資料7課題シート(事務局検討案)として提示していますが、現在各課に課題抽出を依頼し、整理している段階です。第2回以降で各課から抽出した課題と、本日先生方からいただいた課題を整理し、現行計画の振り返りを含め提示したいと考えております。

【委員】 都市計画マスタープランの内容についての進捗確認とあわせて、都市計画マスタープラン自体のまとめ方についても、両面から検討していただきたいと思います。

(事務局) 我々も現行都市計画マスタープランについて検証したいと考えておりましたが、現行都市計画マスタープランは指針であり、あまり具体的な内容ではないため、なかなか検証が出来ておりません。今回改定する都市計画マスタープランでは、抽象的な表現でいいのかという議論もあるため、実際のまちづくりで使えるような実効性のあるものにしたいと考えております。

【委員】 進捗管理をしなければ、改定する理由は何なのか、区としてどの部分を進めていくのが明確にならないと思います。数値的な指標がなく、モニタリングできないのであれば、都市計画マスタープランを策定する意味がないと思うので、数値的な目標でなくても、進捗管理については次の都市計画マスタープランに記載したほうが良いように思います。

また、データ集に関して、分野別に整理することは、担当課としては対応しやすいが、全部を重ね合わせたときに、区全体として土地利用上のQOLがどれくらい上がり、区民が暮らしやすいと思えるような相乗効果を表すことにはならないので、重ね合わせた時に区が何をしたいのか、区全体として上手く機能するような横串のさし方が分かるように作成しなければならないと思います。

特に環境のデータ資料などに関して、データを踏まえて、何が課題であるのか、都市計画としてどのような方向性を考えているのかが見えません。大田区の地形的に起伏のある場所の施設展開や高齢者が増えていく場所の施設整備をどうするのか、ネットワークをどうするのかといった、担当課では解決できないような課題を、都市計画としてどう解決していくのが分かるように作成しなければならないと思います。

【委員長】 今回のデータ資料は町丁目ベースとなっていると思います。現行都市計画マスタープランでは、地域別構想として6地区の地域区分に分けられていますが、今回の都市計画マスタープラン改定において、現行の地域区分をベースとして考えるのか、全く新しいものを考えていくのか、大田区としてこの地域区分はどのように考えているのでしょうか。

(事務局) 現行都市計画マスタープランでは、地形を踏まえて6地区に分類しています。一方で、住民の方々は出張所単位で主に活動されており、まちづくりの動きや取り組みについても駅勢圏や出張所単位で行われております。これらを踏まえて、区民の方々の生活に寄り添った地域区分を検討したいと考えていますので、先生方にも様々な事例のご紹介やアドバイスをいただきたいと思います。

【委員】 参考資料のデータ集に関しまして、この分析結果を大田区としてどのように捉えて、都市計画マスタープランにどのように反映していくのかといった考え方もあわせて整理していただくといいと思います。

また、今回の資料では全体像が示されておらず、部門別から提示されているため、部門別がどう重なり合って、全体の都市計画マスタープランにつながっていくのかが見えてこないと感じました。部門別の考え方を整理する方法としてボトムアップの考え方がありますが、まず地域それぞれの課題を収集し、重ね合わせて検討することで、部門ごとの大きな方向性や関係性が見えてくる可能性もあるのではないかと思うので、進め方についても検討していただければと思います。

【委員長】 部門別の検討項目を重ね合わせたときに全体像としてどうなるのかを考えることで、地域のアイデンティティが見えてくることもあります。また、地域ごとに異なる課題が挙げられると思いますが、課題が類似しているところは、同じエリアとしてまとめて考えられる場合もあり、その中でそれぞれの方向性が分かりやすく示されると良いのではないのでしょうか。

【委員】 大田区全体の都市構造と各分野のプロジェクトがどのように組み合わさっていくのかは、重要な視点であると思います。また、モニタリングに関しては、例えばアンケート調査の中で「区民は基本理念を引き続き重視しようと思っているか」などを区民に聞いてみるのもいいかもしれないと感じました。

また、おおた都市づくりビジョンのまちづくりの動向の中で、まちづくり協議会が設置されていることが記載されていますが、出張所単位でのボトムアップに加えて、まちづくり協議会を区民参画の場として上手く取り入れていただきたいと思います。区民参画について現段階でのアイデアがあれば教えてください。

(事務局) まちづくり協議会は、出張所単位に近い形で設置し、誰でも参加できるものとなっています。ボトムアップに関して、まちづくり協議会や出張所からアンケートやワークショップなどを利用して意見を収集し、現状のまちづくりの動きを確認することはいい方法だと考えております。区民がまちづくりに参加していただけるような区民参画を行いたいと考えており、特に高校生や大学生といった若い世代の声を収集するために、デジタル情報ツールの活用等も検討しております。

【委員長】 まちづくり協議会は全域に設置されているのでしょうか。

(事務局) 現在出張所単位に近い形で8か所設置されています。設置されていない地域に関しては、地域の方々とご相談しながら、今後設立していきたいと考えております。また、臨海部につきましては、3島をまとめてまちづくり協議会を設置しており、活性化について議論している状況です。

【委員長】 多くの区民からの意見を収集するツールとして、まちづくり協議会を利用するという方法もあるのではないかと思います。

【委員】 都市計画マスタープラン改定にあたって、「都市計画」におけるどの範囲を扱うのか、誰をターゲットとするのかをこれから議論していただきたいと思います。大田区の住宅地の協議会に関わっている立場として、大田区の現行都市計画マスタープランは都市基盤の要素が強く、今回まとめられている現況整理や課題の中では、住宅地に関係するものがあまりないように感じます。住宅地に関わるようなソフトなまちづくりを都市計画マスタープランで扱うのか、それとも他のプランで扱うのがいいのかは分かりませんが、現行都市計画マスタープランの категория に分けて整理すると、区民の住んでいる場所によって関係する分野が偏る可能性もあります。都市計画マスタープランでどの部分を扱うのか、扱わ

ない部分はどのプランで受け止めるのか、他のプランとの関係性を明確にしておくというと思います。

(事務局) 現行の都市計画マスタープランの構成は地域別構想が主要な要素となっていますが、地域別構想に捉われず、大田区全体に幅広く対応した都市計画マスタープランを作成したいと考えております。

また、現行都市計画マスタープランはご指摘の通りハード面に偏っておりますが、都市基盤だけでなく、観光や環境、防災など、ソフト面として様々なまちづくりの要素も広く捉えて考えていきたいと思っております。

【委員】 ハード面に偏ることが悪いわけではないので、他のプランとの関係の中で、都市計画マスタープランで扱う範囲を考えるといいと思います。

【委員】 全部取り入れると総合計画になってしまうので、対象の範囲が異なる「都市計画」と「まちづくり」のそれぞれの考え方を工夫して書き分けるべきではないかと思います。

(事務局) 資料課題シート7（事務局検討案）において、現在各課で策定されているプランから課題を整理している段階でございます。これらを利用して都市計画マスタープランとの関係性を整理していければと思っております。ハードに偏ると区民の皆さまに見ていただけないというところもありますので、他自治体の事例も参考にさせていただきながら、区民の皆さまに見て活用していただけるような都市計画マスタープランにしたいと思っております。

【委員長】 大田区基本構想、おおた未来プラン10年（後期）は、今回の都市計画マスタープラン改定にどのように関係してくるのでしょうか。

(事務局) 大田区の基本構想につきましては、改定の予定がないと聞いております。おおた未来プランは、基本構想を受けて、進捗管理を行うものとして位置付けられ、その数値目標を示したものが実施計画となっています。おおた未来プラン（後期）は完了しているため、つなぎの計画として2ヵ年のプランを現在策定中、その後10年間のプランを策定予定であります。

【委員長】 平成20年に基本構想を策定し、それを受けて平成23年に都市計画マスタープランを策定していると思います。都市計画マスタープランの改定にあたって区政全体の方針である基本構想と協調して進めていかなければならないと思いますので、基本構想やおおた未来プランと、都市計画マスタープラン改定の関係性をどのように考えていけばいいのかを次回までに整理していただきたいと思います。

(事務局) 区全体の方針として、関連計画の位置づけや関係性は重要であるため、次回お示しいたします。

【委員長】 都市計画マスタープランがどのような位置づけにあるのかは、区民が分かるように示さなければならないと思います。

【委員】 都市計画マスタープランでの議論を他のプランの中で受け止める仕組みができるように調整していただきたいと思います。資料6-3の重点項目に関しては、まさにおおた都市づくりビジョンで考えたことを踏まえて整理していると思いますが、都市計画マスタープランでどこを受け止めて何をするのかについては検討すべきだと思います。例えば大田区は観光に力を入れていると思いますが、それは大きな目標として掲げている項目であるのか、優先順位を高く上げて本当に力を入れていく項目であるのかで、どのように進めていくかが決まってきます。効果を上げて進めていくためには各部門の個別計画と連携を図る必要がありますが、その中で都市計画に関わる項目を都市計画マスタープランの中でどのように位置づけていくのかは考えなければならないと思います。

【委員】 先ほど事務局から他自治体の事例の話がありましたが、港区の場合、区民公募委員に外国籍の方なども入っていただいております、バランスよく議論が進んだ印象があります。一方で、区民ではないが、港区に通勤している方々など、法人として港区にどう貢献するのかについては議論が難しかったのかなと感じています。

大田区の場合、ものづくりを都市計画マスタープランにどのように位置づけていくのかは、非常に重要であると思っています。その中で、課題シートで産業経済部がまちづくりの課題として掲げているところと、現行の都市計画マスタープランに書かれている方針に関連性がないところも見られるので、現行の都市計画マスタープランそのものを各課がどのように受け止めて、取り組んできたのかについて聞くのも1つの方法ではないかと思えます。

(事務局) 今年、来年にかけて大田区産業振興構想（仮称）を策定中です。産業経済部としても住工調和は重要な課題と捉えており、産業振興構想の中では、都市計画マスタープランの改定と合わせてまちづくりと産業の関係を整理したいと考えております。

【委員長】 ものづくりは、大田区の特徴の1つであります。大田区ならではの都市計画マスタープランの視点の1つとして、ものづくりは非常に重要であると思えます。

【委員】 おおた都市づくりビジョン、蒲田駅周辺地区や大森駅周辺地区のグランドデザイン、空港臨海部グランドビジョンの位置づけが分かりにくいと感じています。都市計画マスタープランは1つにまとまっている必要はなく、各分野の個別計画と連携されていればいいと思いますが、その点で、町田市の計画は、全体構想編、地域別構想編、実施方針編と3分冊化しており、都市計画マスタープランのあり方の1つとして参考になるのではないかと思います。

【委員】 浦安市は、都市計画マスタープランの中で誰が何を担当するのかが記載されており、参考になるかと思います。

また、アンケートについて、区民が住む場所によって選択肢が限定されるような内容であるのが気になります。実際のまちをどのように使っているのかを聞くことや、各課ですで行われているようなものを活用することも考えればいいと思えます。

(事務局) 委員の方々のご意見を踏まえて、アンケートの形式についても検討していきたいと思っております。

また、事例を勉強している中で、区民の皆さまに見ていただくためには、地域別に分割することで、その地域の方々が見やすくなるのではないかという議論も出ております。他事例を参考にしながら、地域の方々に新しい都市計画マスタープランを見ていただくために、今後のまちづくりの取り組み方を整理しなければならないと考えております。

【委員長】 その他アンケートに関するご意見は1週間程度で、各委員からメール等でいただく形にしたいと思います。

【委員】 アンケートの満足度については、調査票のリード文に誘導されるような書き方になっており、再検討したほうがいいのかと思えます。

また、大田区らしい都市計画マスタープランをどのように作成していくのかは重要であると感じており、その中で産業振興のあり方とそれに伴うまちづくりのあり方を、お互いに相乗効果が得られるような議論をしていただければいいと思えます。

【委員】 防災について、今後ぜひ議論していただきたいことが4点あります。

1点目として、気象災害のハザードマップに関してはかなり深刻であると思えます。特に浸水が4週間続くような低地部に住む区民とのリスクコミュニケーションが来ている

のかといった内容や、西日本豪雨を踏まえて大規模水害について具体的な取り組みを進めていくといった内容を都市計画マスタープランに取り入れてはどうかと思います。また、大田区は地形的にも都市復興の道筋をつけやすいと考えられますので、都内に先立って大規模水害時にどのように生活を回復していくのか、都市復興の観点を取り入れてはどうかと思いました。2点目は、火災時の広域避難に関して、区民の意識強化のためにも、東京都の計画を踏まえて取り入れるべきではないかと思います。3点目は大森中地区や羽田地区の防災まちづくりに関してですが、今回の都市計画マスタープランの改定にあたり、安全性を見直す良いタイミングではないかと感じています。大田区として防災まちづくりを議論する中で、おおた都市づくりビジョンにも記載されているように、具体的な手立てとして事前復興による防災まちづくりについて記載したほうがいいのではないかと思います。4点目は空港に関して、羽田空港のBCPと大田区全体のBCPの関係性について震災時にどのように対応するかは、大田区として大事な論点ではないかと思います。

【委員長】

都市を考える際に、俯瞰的に議論して構造を捉えるトップダウン的な方法とボトムアップの方法があります。ボトムアップに関しては、様々な既存の組織を利用して意見を収集し、問題意識を反映した現状分析を行うことが重要であると思います。一方、俯瞰的に全体の都市構造を捉える場合は、基本構想など区の上位計画と整合性を確保することが重要となります。その上で、大田区の都市構造をどう考えていくのかを、区民の皆様に分かりやすく伝えられるかどうか重要であり、これらの過程の中で地域の全体像が上手く示せると望ましいと思います。

また、大田区の特徴であるものづくりの問題意識や住工混在の課題、地域的な防災の観点、空港における課題等、大田区の都市計画マスタープランとしてその特徴をどう反映していくのが重要です。まちづくりは分野横断的に連携を取らなければならないという認識が強い中で、実効性のある都市計画マスタープランの位置づけについて、誰をターゲットにしているのかといった点も踏まえて、議論する必要があります。

最後に、都市構造は大田区だけで考えていけるものではありませんので、川崎市や品川区などの周辺市区の動向を踏まえて、今後大田区の都市構造について議論していただければと思います。